

第3章

東京2020 パラリンピック 聖火リレー

Tokyo 2020 Paralympic Torch Relay



1 東京2020パラリンピック聖火リレー概要

基本情報

パラリンピック 聖火リレーとは

「パラリンピック聖火はみんなのものであり、パラリンピックを応援するすべての人の熱意が集まることで聖火を生み出す」という国際パラリンピック委員会(IPC)の理念に基づいて開催される。聖火リレーで用いられるパラリンピック聖火は、イギリスのストーク・マンデビルと開催国内各地の複数箇所にて採火される炎から生み出される。炎は、人々がパラリンピックを応援する熱意の表れとされ、実際の炎に限らず、SNS等を活用したデジタルの炎も認められている。こうして各地で採火された炎は開催都市で一つに集火され、パラリンピック聖火として、リレーの形で開催都市を巡る。

コンセプト

Share Your Light

あなたは、きっと、誰かの光だ。

「新たな出会いから生まれる光を集めて、みんなが調和し、活かしあう社会を照らし出そう。」という思いを端的に表しており、また、パラリンピック聖火リレーを通じて、多様な、そして社会の中で誰かの希望や支えとなっている光(人)が集まり、出会うことで、共生社会を照らす力としようという想いを表現しています。

エンブレム

東京2020パラリンピック大会エンブレムをデザインの起点としている。大会エンブレムを構成する3つの四角形を聖火の炎と見立て、炎のダイナミックな動きを表現している。また、日本らしさを表現するデザインモチーフとして「拭きぼかし」という浮世絵の技法を用いた。

色彩は日本の伝統色を用いている。多様な個性の輝きを表現する「黄金(こがね)」に、「黄土(おうど)」を組み合わせ、人々に日本らしい祝祭感と東京2020パラリンピックへの期待感を印象づける。



トーチ

日本人に最もなじみ深い花である桜をモチーフとしている。

● 伝統と現代技術の融合

日本の伝統的なかたち「桜紋」を、新幹線等の製造にも使われている製造技術「アルミ押出成形」を用いて形作っている。継ぎ目のない、ひとつなぎのトーチ。

● 復興への想いと持続可能性への配慮

パラリンピック聖火リレートーチの素材の一部には、東日本大震災の復興仮設住宅のアルミ建築廃材を再利用している。人々の生活を見守ってきた仮設住宅が、人と人の新たな出会いが生まれるパラリンピック聖火リレーのトーチに姿を変え、一歩ずつ復興に向けて進む被災地の姿を世界に伝える。

● 美しく、燃え続ける炎

パラリンピック聖火リレートーチは、炎もデザインされている。1枚1枚の花びらから生み出された炎は、トーチの中央でひとつとなり、より大きな輝きを生み出す。燃烧部には、聖火を保ち続けるために火力の強い青い炎と火のない燃烧(触媒燃烧)の2つの燃烧により炎を維持する仕組みが採用されている。

● すべての人のための聖火リレートーチ

重さや握りの形状にも配慮し、年齢や性別を問わず、誰にとっても扱いやすいトーチになっている。

- 全 長：710mm
本 体 重 量：1.2kg
(本体約1kg+燃料部200g)
色：桜ピンク
主 な 素 材：アルミニウム
(仮設住宅由来の再生アルミニウム約30%を含む)



写真提供:共同通信社

聖火皿

各道府県の出立式や、開催都市(東京都)内聖火リレーの各日の最後に行うセレブレーションといった、セレモニアルな場で使用される。トーチと同じ桜の花をモチーフにしたデザインとなっている。

- 全 高：約1.5m
幅：約0.8m(最大)
重 量：約200kg
燃 料：プロパンガス
主 な 素 材：アルミニウム
(仮設住宅由来の再生アルミニウム約30%を含む)



写真提供:共同通信社

ランタン

聖火リレーが行われる市区町村間の車両移動や聖火フェスティバルの際などに使用される。聖火の炎は、聖火リレーが行われていない間の移動時、炎が消えないよう、ランタンへ移される。

- 全 高：約30cm
直 径：約9cm
重 量：約1.8kg
燃 料：灯油
主 な 素 材：真鍮



ユニフォーム

大会ルックであり、途切れることなくつながっていくことから縁起の良い柄とされる市松模様により、日本全国から集められる聖火がつながっていく様や、「3人1組のランナー」で集結していく想いや熱意を表現した。また、市松模様をパラリンピック聖火リレーエンブレム(聖火)から発せられる「光」にたとえ、グラフィカルに表現した。



Photo by Tokyo 2020

全国実施概要

<p>名 称：東京2020パラリンピック聖火リレー</p> <p>日 程：2021(令和3)年8月12日(木)～24日(火)の13日間 ※オリンピックの熱気と興奮をつなぐべく、オリンピック終了後、パラリンピック開会式までの移行期間に開催 ※東京2020大会の延期に伴い、当初の予定から1年延期となり、上記日程で実施</p> <p>場 所：47都道府県</p> <p>主 催：東京2020組織委員会</p> <p>共 催：各都道府県 (東京2020パラリンピック聖火リレー各都道府県実行委員会含む)</p>	<p>パートナー：●プレゼンティングパートナー 株式会社LIXIL</p> <p>●サポーティングパートナー ENEOS株式会社 全日本空輸株式会社 日本航空株式会社</p> <p>●アソシエーティングパートナー ヤフー株式会社</p> <p>ランナー総数：約1,000人 ※聖火ランナーは、都道府県や聖火リレーパートナーなどからの公募または推薦により選定</p>
---	---

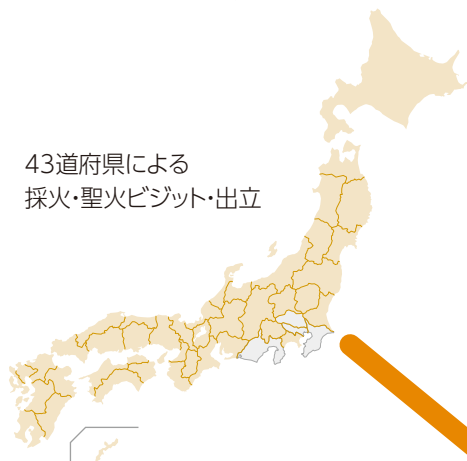
パラリンピック 聖火リレーの流れ

8月12～20日 聖火フェスティバル

採火、聖火ビジット(任意)、聖火リレー(競技開催4都県)、出立を実施。それぞれの共生社会への思いが込められた火を独自の手法で採火し、開催都市東京都へ送り出す

12～16日 43道府県 (競技開催4都県は除く)

43道府県による
採火・聖火ビジット・出立

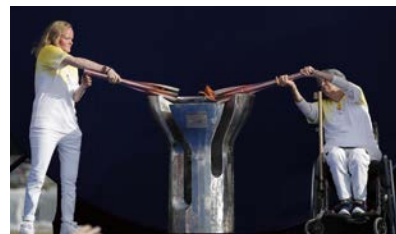


19日(現地時間) イギリス

ロンドン郊外の「パラリンピック発祥の地」ストック・マンデビルで採火



ストック・マンデビル



写真提供:共同通信社

17～20日 競技開催4都県



- 17日 静岡県
- 18日 千葉県
- 19日 埼玉県
- 20日 東京都

4都県がそれぞれ採火した火を用いて聖火リレーを実施
3県は東京都に各県の火を送り出す

東京都へ出立

20日・夜 集火式

全国47都道府県とストック・マンデビルの火が東京都に集まり、一つの炎にするセレモニー
一つになった炎が「東京2020パラリンピック聖火」となる

21～24日 開催都市(東京都)内聖火リレー

「東京2020パラリンピック聖火」により、開催都市の東京都内で聖火リレーを実施

24日・夜 パラリンピック開会式で聖火台に点火